

羽後牛で受験乗り切って 町が地元中3生に提供



羽後町は、高校入試を前にした羽後中学校3年生を応援しようと、町特産の羽後牛の肉を提供した。

先月28~30日にかけて、各クラスが順番に、家庭科の調理実習の時間を使ってステーキを調理し味わった。

28日は生徒30人がきめ細やかなサシが入った約200グラムのサーロインステーキを丁寧に焼き上げ、おいしそうに頬張った。佐々木龍斗さんは「脂がのっていてジューシー。肉の力で勉強も頑張れそうだ」と話した。

この日は生産者のJAうご肉用牛組合の小野浩二組合長(69)が同校を訪問。「大切に育ててきた羽後牛をおいしく味わってもらい、体力をつけて受験を乗り切ってほしい」とエールを送った。

羽後牛の提供は、受験生を応援するとともに、町特産の良さを知って古里に愛着を持ってもらおうと、2017年度から実施している。

(館岡朋美)

(令和8年2月2日(月) 秋田さきがけ新聞から一部抜粋)